

科目名称：	こども特演Ⅴ（乳児保育Ⅰ）	
担当者名：	桶屋 雅子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
乳児保育の意義と目的、歴史的変遷及び役割を学んだ上で多様な保育の場における乳児保育の現状について理解する。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と保育者の援助や関わりについて学び、さらに運営体制や職員間、保護者との連携・協働について理解を深める。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 乳児保育の意義や歴史的変遷について学び、多様な乳児保育の現状や課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制や、職員間及び保護者や地域の関係機関との連携・協働について理解する。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)	60		30	10	100
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 保育士	《経験年数1》 31年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス 乳児保育の意義と目的	保育所保育指針解説書に目を通しておく	60分
第2回 乳児保育の歴史の変遷と現状	教科書第1章を読んで予習しておく	45分
第3回 乳児が生活する場①(家庭)	家族に自分の誕生や乳児期のことを聞き、母子手帳を見ておく	45分
第4回 乳児が生活する場②(保育所、認定こども園等)	教科書第2章 §2～§4を読んで予習しておく	45分
第5回 乳児が生活する場③(地域型保育事業、乳児院等)	教科書第2章 §5～§7を読んで予習しておく	45分
第6回 3歳未満児の生活と環境(DVD視聴)	近辺の保育施設で乳児を見学・観察し、気付いたことなどのレポートを書く	90分
第7回 3歳未満児の生活と遊びの環境① 保育施設3歳未満児見学(a)	触れ合いができる教材として作りたい動物をイメージし、必要な材料を用意する	30分
第8回 3歳未満児の生活と遊びの環境② 保育施設3歳未満児見学(b)	触れ合いができる教材として作りたい動物をイメージし、必要な材料を用意する	30分
第9回 3歳未満児の生活と遊びの環境③ 保育施設3歳未満児見学の報告・発表	園見学(0・1・2歳児)しての考察レポートを書く	60分
第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育①(0歳児)	乳児(0歳児)の発達について調べる	60分
第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育②(1歳以上3歳未満児)	おおよそ1歳から2歳、3歳までの発達について調べる	60分
第12回 乳児保育の計画・記録・評価	教科書第3章を読んで予習しておく	45分
第13回 保育所内での連携・協働(保育者間、他職種間)	教科書第4章 §1、保育所保育指針解説書第5章1を読んで予習しておく	45分
第14回 乳児保育における保護者との連携・協働、子育て支援	教科書第4章 §2、第5章 §4、保育所保育指針解説書第4章1,3を読んで予習しておく	60分
第15回 乳児保育における地域や自治体との連携・協働、子育て支援	教科書第4章 §3、保育所保育指針解説書第4章3を読んで予習しておく	60分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 レポート・課題等提出物30%、授業への積極的関与10%		
課題に対するフィードバック		
前回の授業においての要点を授業初めに確認する。課題や制作物は次回以降の授業で返却し、講評する。		
教科書・参考書		
『乳児保育の基本(改訂版)』阿部和子 編 萌文書林 『保育所保育指針解説書』フレーベル館		